

施工の際には、室外ユニットに付属の施工説明書を参照のうえ施工してください。

冷媒ガス漏れ試験



警告

死亡または重傷になるおそれがあります。



**必ず指示通り
行ってください**

■ 冷媒配管工事終了後は、必ず気密試験を行い冷媒ガス漏れがないことを確認する。

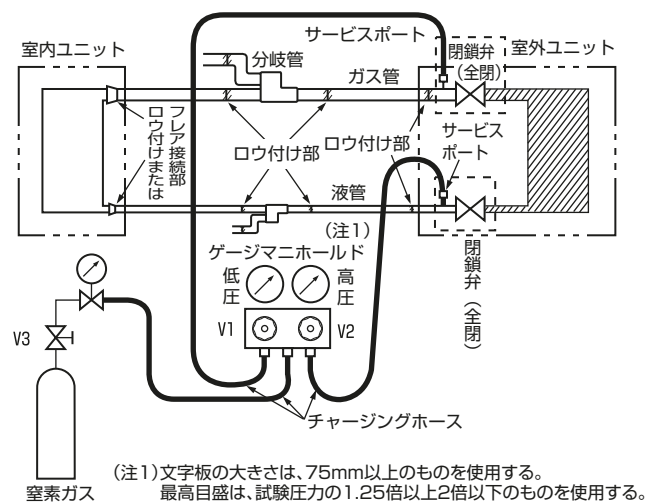
・ 万一冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

1. 閉鎖弁のサービスポートキャップを外し、右図のようにゲージマニホールドを接続します。V1・V2・V3を開き窒素ガスで加圧します。

- ・ 閉鎖弁は閉じたまま、必ず液管、ガス管両方に加圧してください。
- ・ 漏れ試験圧力は $3.8^{+0.1}_0$ MPa(リニューアル対応機の場合: $3.3^{+0.1}_0$ MPa)で行ってください。

2. 加圧は一度に規定圧までしないで、徐々に行ってください。

- (ア) 0.5MPaまで加圧したところで、加圧を止めて5分以上放置し、圧力の低下のないことを確認してください。
- (イ) 次に1.5MPaまで加圧し、再び5分以上そのまま放置し、圧力の低下のないことを確認してください。
- (ウ) その後、規定圧力(3.8MPa、リニューアル対応機の場合: $3.3^{+0.1}_0$ MPa)まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモしてください。
- (エ) 規定圧力にて約1日間放置し、圧力が低下していなければ合格です。この際、周囲温度が1℃変化すると圧力が約0.01MPa変化しますので、放置前後の温度変化を考慮し、漏れの有無の判断を行ってください。
- (オ) (ア)～(エ)の確認で圧力低下が認められたものには漏れがあります。溶接箇所、フレア部などに発泡試験液などを用いて漏れ箇所を発見し補修してください。補修後は再度気密試験を実施してください。



●気密試験時に守らなければならない項目

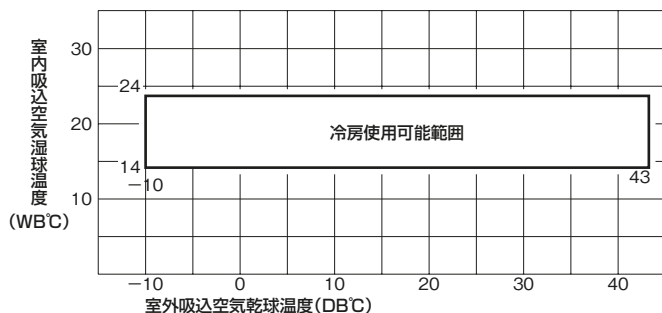
1. 気密試験時に機器を運転しないでください。
2. 加圧ガスには、フロン類、酸素および可燃性ガスなどは絶対に使用しないでください。
3. 機器側の閉鎖弁は閉じたままとし、配管施工部以外に加圧しないように注意してください。
4. 必ず液管、ガス管の両方に加圧し、気密試験を実施してください。

●気密試験の留意点

1. ロウ付け後、配管温度が下がらないうちに加圧すると、冷却後に減圧するので注意してください。
2. 容器内の気体の圧力は絶対温度に比例するため、外気温度による圧力変動に注意してください。
(例) 「測定時絶対圧力」= 「加圧時絶対圧力」× [(273+測定時温度(℃)) / (273+加圧時温度(℃))]

GHPエグゼアⅢ・GHPエグゼアⅡ・小型シリーズ施工概要 使用可能温度範囲

冷房運転



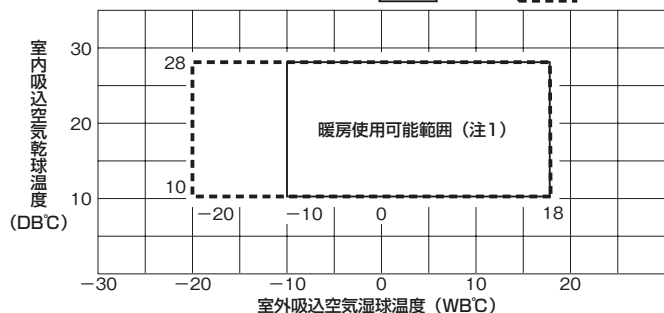
(注1) 標準機の使用温度範囲でも、外気温度が0℃以下になるおそれがある場合、ドレンヒーターキット(オプション品)が必要です。

※GHPエグゼアⅢの場合、外気温度50℃の環境下でも冷房運転の継続が可能です。

※機器に使用温度範囲外(特に高外気温)でご使用になられますと、機器故障の原因になることや保護回路が働き運転しない場合があります。

※年間を通して冷房で使用する場合は、臭気低減仕様を選定してください。ガス種がR410Aの場合は、臭気対応キットを取り付けてください。

暖房運転



リモコンの温度設定範囲

システムの運転可能範囲とは多少異なります。

	上限	下限
冷房	35℃	20℃
暖房	30℃	15℃

※リモコンの設定温度は室内ユニットの温調制御をするための温度であり、室温が設定温度になることを保証するものではありません。

※床置ダクト形のスポット省エネモードおよび外気処理モード時、外気処理エアコン天井埋込ダクト形、外気処理エアコン壁ビルトイン形の場合は、上表の温度設定範囲とは異なります。